

試験本番で
必ず
役立つ!

読解問題の設問パターンと その攻略法

(注) この本は高校受験生向けですが、国語力＝論理的思考力の習得には本来、小中高の区別は関係ありません。解説の中で中学入試や大学入試についても触れているのは、そのためです。／ラインが引かれた鉄則は、その項目に特に関連が深いことを意味します。／鉄則1～5や21は全ての問いに関連します。

〈1〉「言いかえる力」で立ち向かえ!

言いかえる設問 パターン①

〈問い〉「——とは、どういうことか」「——とあるが、これはどういうことを言っているのか」

「——とは、どのようなことか」「——とは、どのような意味か」「——の意味を、分かりやすく説明せよ」「——とあるが、それを説明したのとして最もふさわしいものを選びよ」

〈鉄則〉鉄則9、鉄則10、鉄則13、鉄則14、鉄則15、鉄則16

〈解説〉あらゆる中学入試・高校入試・大学入試で出題されるパターンです。

多くは、筆者独自の言い回し(特に比喻表現)を言いかえることを求める設問です。

言いかえる設問 パターン②

〈問い〉「この言葉には、なぜ『』がついているのか」「この言葉には、なぜ『』がついているのか」

〈鉄則〉鉄則9、鉄則10、鉄則13、鉄則14、鉄則15、鉄則16

〈解説〉同様の設問は、これまで、筑波大学附属駒場高校、山形大学、その他多くの学校で出題されました。「なぜ」とありますが、「たどる力」よりも「言いかえる力」が武器となります。パターン①と同様の設問です。たとえば、「料理の味」と「料理の『味』」では、意味が変わり得ます。後者は、「料理の個性」といった意味にもなるのです。「」や『』がついた言葉をこうして言いかえさせる設問は、多くの中学入試・高校入試・大学入試で出題されています。

言いかえる設問 パターン③

〈問い〉「——とは、どういうことをたとえているのか」

〈鉄則〉鉄則9、鉄則10、鉄則13、鉄則14、鉄則15、鉄則16

〈解説〉同様の設問は、これまで、東京学芸大学附属高校、ラ・サール高校、その他多くの学校で出

題されました。これも、パターン①・②と本質的には同じ設問です。たとえば、「猿も木から落ちる」はどういうことをたどえているのか、と問われたら、答えは「名人でも失敗するということ」などと抽象化して答えます。

言いかえる設問 パターン④

〈問い〉「——は具体的にはどういうことか」——とあるが、それを具体的に述べている部分を三〇字以内で抜き出せ」(字数は一例)

〈鉄則〉鉄則9、鉄則10、鉄則13、鉄則14、鉄則15、鉄則16

〈解説〉あらゆる中学入試・高校入試・大学入試で出題されるパターンです。

パターン①と同様ですが、特に具体化を要求する設問です。

言いかえる設問 パターン⑤

〈問い〉「——を比喩的に言いかえた箇所を抜き出せ」——とあるが、この部分をたとえを用いて表した一文を抜き出せ」

〈鉄則〉鉄則9、鉄則10、鉄則13、鉄則14、鉄則15、鉄則16

〈解説〉同様の設問は、これまで、國學院高校、愛知県立高校、その他多くの学校で出題されました。これは、パターン③の逆です。

言いかえる設問 パターン⑥

〈問い〉「筆者は、——についてどのように述べているか。文章全体を踏まえ、一〇〇字以内で説明せよ」[筆者がこの文章全体で述べている——の特徴とは、どのようなことか。六〇字程度で説明せよ](字数は一例)

〈鉄則〉鉄則3、鉄則6、鉄則7、鉄則9、鉄則10、鉄則13、鉄則14、鉄則15

〈解説〉同様の設問は、これまで、新潟県立高校、静岡県立高校、その他多くの学校で出題されました。「文章全体を踏まえて」というのは、文章全体の骨組み、つまり筆者が最も伝えたいことがらをまとめよということです。次のパターン⑦も同様です。

言いかえる設問 パターン⑦

〈問い〉「本文の……の範囲を五〇字以内で要約しなさい。——に対する筆者の考えとその根拠に触れること」「次の文章を八〇字以上一〇〇字以内に要約しなさい」(字数は一例)

〈鉄則〉鉄則3、鉄則6、鉄則7、鉄則9、鉄則10、鉄則13、鉄則14、鉄則15

〈解説〉同様の設問は、これまで、神奈川県立高校、中央大学杉並高校、その他多くの学校で出題されました。要約とは、抽象化の作業です。「言いかえる力」が、そのための第一の武器です。ただし、要約すべき範囲が全体に及ぶほど、そこには対比関係・因果関係を含むようになる

ため、結局は「3つの力」をすべて發揮する必要があります。たとえば、先の〈問い〉のうち「根拠に触れること」というのは、「たどる力」を要求しているわけです。

言いかえる設問 パターン⑧

〈問い〉「国語の授業でこの文章を読んだ後、——というテーマで自分の意見を発表することになった。このときにあなたが話す言葉を、**具体的な体験や見聞も含めて**二〇〇字以内で書きなさい」「——とあるが、そのような人間社会の問題の**具体例を挙げた上で、あなたの考える問題解決の糸口を**二五〇字以内で書きなさい」「この文章に書かれていることを参考にして、——について**あなたが考えたこと**を二〇〇字以内で書きなさい」

〈鉄則〉 **鉄則2、鉄則3、鉄則9、鉄則10、鉄則13、鉄則14、鉄則15、鉄則22**

〈解説〉同様の設問は、これまで、東京都立高校、都立日比谷高校、都立西高校、都立八王子東高校、その他多くの学校で出題されました。まず文章の骨組みをイメージし、それから書き出す必要があります。その意味では、パターン⑥・⑦などと同じです。そこに、パターン④と同様、具体化の作業を加えていきます。パターン⑦でも述べたように、「根拠を示すこと」などあれば、「たどる力」も同時に必要になります。

言いかえる設問 パターン⑨

〈問い〉「本文に書かれている内容に合うものを、あるだけ選べ」

〈鉄則〉 **鉄則9、鉄則10、鉄則13、鉄則14、鉄則15、鉄則21**

〈解説〉あらゆる中学入試・高校入試・大学入試で出題されるパターンです。選択肢はいずれも、文章の細部または全体について多少とも表現を言いかえた形で書かれています。

言いかえる設問 パターン⑩

〈問い〉「——部『それ』が指し示す内容を説明せよ」

〈鉄則〉 **鉄則9、鉄則13、鉄則18**

〈解説〉あらゆる中学入試・高校入試・大学入試で出題されるパターンです。

〈2〉「くらべる力」で立ち向かえ!

くらべる設問 パターン①

〈問い〉「——③と——④とでは、○○(人物名)の○○に対する**気持ちは変化している**。○○の**気持ちは変化を、そのきっかけとなったことも含め、九〇字以内で説明せよ**」「○○がこのよ
うな思いになるまでの**気持ちは変化を説明したものとして最も適当なものを選べ**」「○○の

気持ちが変化したのは、○○のことをどのように感じるようになったからか。～感じていたが、～感じるようになったから。という形で、八〇字以内で説明せよ」「——とあるが、ここで○○はどういうことに気づき始めたのか。二〇〇字以内で詳しく説明せよ」

〈鉄則〉 鉄則3、鉄則8、鉄則19

〈解説〉 同様の設問は、これまで、攻玉社学園中学校、武蔵中学校、麻布中学校、桜蔭中学校、宮崎県立高校、岡山県立高校、広島県立高校、香川大学、宮崎大学、その他多くの学校で出題されました。文学（物語・小説）とはそもそも、人物の変化（特に対比的变化）を描くものです。こういった設問が多いのは、必然であると言えるでしょう。

くらべる設問

パターン②

〈問い〉 「（ア）と（イ）は、どう違うか。説明せよ」

〈鉄則〉 鉄則4、鉄則6、鉄則7、鉄則10、鉄則11

〈解説〉 同様の設問は、これまで、多くの学校で出題されました。

「会う」と「見かける」（開成中学校）、「旅」と「観光旅行」（雙葉中学校）、「手品師」と「魔法使い」（学習院女子中等科）、「ザバン！」と「ザバンッ！」（筑波大学附属駒場中学校）、「理解」と「認識」（開成高校）、「クリックする行為」と「めくる行為」（お茶の水女子大学附属高校）、「展開する」と「展開しがち」（信州大学）、「シャーマンのな交通」と「プリースト（司祭）的な交通」（名古屋市立大学）など、類似したAとBとの間の相違点を説明させる設問が多々出題されています。また、類似したものを例示した上で、それとは違う別の例を挙げて説明することを要求する設問もあります。たとえば、「技」と「技術」・「聞く」と「聴く」・「楽しい」と「面白い」を例示しておいて他の例を挙げさせる設問（秋田県立高校）、「アイスクリーム」と「クリーム」、「うつろ」と「からっぽ」*を例示しておいて他の例を挙げさせる設問（慶應義塾湘南藤沢中等部）などです（※「うつろとからっぽ」という谷川俊太郎の詩）。なお、相違点のみならず共通点も同時に挙げさせる場合も、多々あります。「教養」と「趣味」の共通点・相違点を説明させる設問（京都大学）などです。

くらべる設問

パターン③

〈問い〉 「（ア）は（A）だが、（イ）は（B）である。空欄を埋めよ」

〈鉄則〉 鉄則4、鉄則6、鉄則7、鉄則8、鉄則10、鉄則11

〈解説〉 同様の設問は、これまで、多くの学校で出題されました。

「○○（人物名）が（ ）と言ったのに対し、○○は（ ）と答えたので、……ととらえている」といった形での記述を求める設問（岐阜県立高校）、「——とあるが、筆者がそ

述べるわけを次のように説明する。空欄を埋めよ。ヒト以外が（ ）であるのに対し、ヒトだけが（ ）だから」といった形で記述を求める設問（都立西高校）、「一般的には（ ）なものと考えられがちな『無駄や脱線』が、実は（ ）ものであることを強調している」といった形で記述を求める設問（秋田県立高校）などです。また、「敗者以上に勝者が悲劇的であるのはなぜか」というように逆説の理由を問う設問（広島大学附属高校）や、「AとB二つのポスターのうちどちらを選ぶか。理由とともに述べよ」というように対比を根拠に主張させる設問（静岡県立高校）など、「たどる力」も同時に求められるタイプもよく出ます。

〈3〉「たどる力」で立ち向かえ！

たどる設問 パターン①

〔問い〕「——とあるが、なぜそう言えるのか」「——とあるが、このように言えるのはなぜか。最も適切なものを選び」「——とあるが、筆者がこのように述べたのはなぜか。最も適切なものを選び」「——とあるが、『私』が——したわけとして最も適切なものはどれか」「『私』が

こう感じたのはなぜか。そのきっかけとなった○○（人物名）の言葉を書き抜け」「……が——だと言えるのは、……がどのようなものだからか」「……とは、どのような気持ちから生じたものか」

〔鉄則 8、鉄則 12、鉄則 13、鉄則 19、鉄則 20〕

〔解説〕あらゆる中学入試・高校入試・大学入試で出題されるパターンです。文章から読み取れる因果関係がジャンプしている（飛躍している）ときにその間を埋めさせる設問、あるいは、文章に書かれた理由が冗長であるため短くまとめさせるような設問が、その主流です。

たどる設問 パターン②

〔問い〕「——とあるが、この表現から読み取れる○○（人物名）の気持ちに近いものはどれか」

「——とあるが、このときの○○（人物名）の気持ちはどのようなものだと考えられるか」

〔鉄則 8、鉄則 9、鉄則 10、鉄則 19、鉄則 20〕

〔解説〕あらゆる中学入試・高校入試・大学入試で出題されるパターンです。たとえば、「うなだれていた」という表現から読み取れるのは、「失望」「落胆」「残念に思う気持ち」などとなるでしょう。「失望した→だから→うなだれた」ということです。「このように言ったのは、こういう心情だったからだろう」と考えます。なお、「たどる」というよりも「言いかえる」

に近い考え方になる場合もあります（たとえば、――部に「一人きりになった」とあり、このときの心情を「孤独感」などとするように、両者の意味が対一で対応しやすい場合）。

たどる設問 パターン③

〈問い〉「(ア)によって(イ)となった。空欄を埋めよ」

〈鉄則〉鉄則8、鉄則12、鉄則19、鉄則20

〈解説〉同様の設問は、これまで、多くの学校で出題されました。

「() () ことによって、今の常識では解決できない問題の突破口を見つけられる」というような形で空欄を考える設問（大分県立高校）、「時間はもつとも貴重な資源であるため、() () ということ」「父さんが() () から、父さんの言葉に同意してうなずいたということ」などといった形で空欄を考える設問（青森県立高校）などです。

その他のパターン

◆脱文挿入・乱文整除

脱文挿入は、「本文中には次の一文が抜けています。戻すならどこですか」などと問われます。乱

文整除は、「本文中のこの部分は、文がバラバラに並んでいます。並べ替えるとうなずきますか」などと問われます。どちらも、抜けている一文（脱文）やバラバラになったそれぞれの文の中に含まれる指示語や接続語をヒントにして解くパターンがほとんどです。つまりは、前後の文の関係を問うているわけであり、「3つの力」のそれぞれを必要に応じて使えば、解決できます。たとえば、「脱文挿入」において脱文の文末に「くからです」などとあれば、その文は「原因（理由）」です。脱文の前には、その一文の「結果（結論）」が書かれているはずで、この場合は、「たどる力」を発揮することになります。このとき役立つのは、「文頭接続語」及び「文中・文末接続語」です（鉄則18）。

◆段落関係・接続語挿入

段落関係は、「この文章における第七段落の役割を説明したものと最も適切なものはどれか」などと問われます。第六段落（まで）と第八段落（以降）との関係性を問うているわけですから、「3つの力」を総合的に使い、どの「関係」なのかを判定することで解決できます。接続語挿入も、同じことです。空欄の前後の文（あるいは段落）の「関係」を確定させるのです（鉄則17）。

（注）東京都立高校の入試問題は平成26年度から自校作成ではなくグループ作成となっている。

参考文献 『全国高校入試問題正解』『全国大学入試問題正解』（旺文社）『中学入學試験問題集 国語編』（みくに出版）